１９９２年６月５日第３種郵便物承認　ＫＴＫ増刊通巻第３７２６号　２０１１年１１月１４日発行（毎月１回２５日発行）

KTK

NO. 80

あらぐさ通信

編　　集　あらぐさ後援会
編集協力　社会福祉法人あらぐさ福祉会
〒617-0813　京都府長岡京市井ノ内広海道２４－３
TEL 075-953-9212　FAX 075-953-9215

後援会費郵便振替口座
０１０７０－７－３２１４５
あらぐさ後援会

いよいよ着工　新しいケアホーム

来春の開所めざし　心ひとつに

――ケアホームの敷地はどれくらいですか

約３９０坪の広さがあります。

――ここに４棟のホームが建てられるのですね

いずれも鉄筋コンクリートの２階建てです。Ａ棟は居室が８室、Ｂ棟４室、Ｃ棟10室、Ｄ棟５室でショートステイ用にそれぞれ１室～２室が設けられます。（棟の名称は仮称です）

――建物はどのようになっているのでしょう

Ａ棟は１階が居室で、２階は事務部門が使用します。車いす使用の方が利用しやすいように設計されています。特殊浴槽もつけられます。Ｂ棟はコンパクトなつくりになっています。Ａ棟もＣ棟も男女が利用しますがスペースが分けられているので、玄関は別になっています。Ｄ棟には４棟共用の多目的スペースがあります。

――設備などは

地面と部屋の段差をなくしています。耐火・耐震構造はもちろんですが、スプリンクラーや自動火災警報装置も設置するなど安全面に配慮しました。

――今後の予定は

11月から工事が始まり、来春の開所をめざして進められます。

ケアホーム建設支援のあゆみ

（写真上から）後援会学習会・建設をめざす みんなのつどい・光明寺前での募金活動・建設支援絵画創作展

▼待ちに待った国庫補助の決定を聞いた時、「本当に！良かった！バンザーイッ！」と。そしてほっとして、明るい未来が見えた気持ちでした。そして今は、完成後、我が子のホーム生活を楽しみに待つ日々です。K．N．

▼多くの人の強い思いとその思いを実現させるべく動いて下さった方々の努力が実のりケアホームは形になろうとしています。万歳！！今日まで何とか平穏無事に過ごせました事を喜んでおります。しかし迫りくる老に対する不安、ケアーがなければ生きていけない我子の事が一番の心配です。あらぐさケアーホームに大きな期待をしています。そして弱者に対する福祉法が更に充実されることを望んでおります。（M）より

▼ケアホーム建設の話を聞いた時にはほんまにできるんやろかと不安に思っていました。ところが募金活動によりたくさんの人たちが応援して下さったことで心強く思うことができました。今夢ではなく現実にケアホーム建設が始まろうとしています。時々現場まで行き完成までの様子を親子で見ておこうと思っています。いつの日かみんなが安心して生活できるようになることを願っています。S．M．

▼皆様のおかげでケアホーム建設の国庫補助が決まり、何より嬉しく思っています。毎朝元気に通所し、楽しく帰ってくる姿を見ると、将来もこの地域で生活し、大好きなあらぐさに通い続けられることが私達の願いです。塚上康子

▼今年は、東日本大震災の影響でもしかしたら無理では？と気が萎ったりしましたが、決定のニュースに、ほんとうに嬉しく、その場にいた親たちと、喜びを分かち合いました。我が子が入居できたら？・・・と、ケアホームでの生活を想像しています。仲間と生活するのが、大好きな我が子だから。ＩＳ

ケアホーム工事始まる
喜び・期待の声

▼ケアホーム実現に向けて２年間　こんなに早く実現するとは・・・。みんなの力はすごいですね。「嬉しい！！」の一言です。今あらためて思うことあらぐさの理念「どんなに障害が重くても　学び育った地域で暮らし続けること」　このことばの重み　心にひびきます。大久保久江

▼本当によかったと思います。今までがんばって来られた関係者の方に、心より「ありがとうございます」と伝えたいです。家族も本人も高齢化していく状況でケアホームは本当に必要だと思います。今後はケアホームをみんなで支えていく活動を考え、入居者の生活を支える人材育成が重要だと思います。これからもみんなでがんばっていきましょう。N．M．の父

▼うれしいです。昨年は募金目標３０００万円なんてきびしいなと考えながらいろんな知恵も絞ったし身体も動かした一年間でした。本当によく頑張りました。その成果はこの一年の取り組みの頑張りだけではなく、無認可時代のあらぐさを支えてもらった地域の力の一つの「結節点」といえると思います。このことをみんなでかみしめながら前へ進みたいですね。　増田弘子

▼待ちに待っていたケアホームの建設の第一歩が始まりました。たくさんの方々のご支援と、募金活動での「頑張って下さい」の励ましが忘れられません。やっと自立の時が来たと思うと、胸が一杯です。　輝之・母

▼「息子もこの地で暮らしていきたい」という思いがあり、暮らせる事を願い、夢だった「ケアホーム建設」が目標になり、

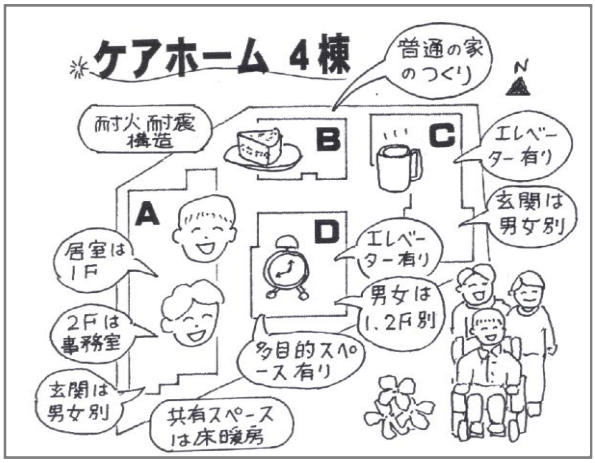
そして現実になって、とても嬉しいです。今は、「本当に実現したんだ」と思うたびに心臓がドキドキしてきます。　K．Y．

▼家族の今の喜び　SA　母
毎朝「ピヨピヨ」という目覚ましの音で目覚め、一人で身支度をし、リビングへ。さあ今日も「お仕事がんばろ。」という気持ちが現れています。染色、園芸、食品どれも好き。あらぐさは彼女にとってなくてはならない自分の居場所です。彼女の笑顔に家族も「元気」をもらっています。

▼国庫補助が決まったと聞いて、法人化に伴う新施設の建設当時のことを思い出しました。「生まれ育ったこの街で、ずっと暮らしたい」という皆んなの思い、あらぐさの願いが一歩一歩着実に進んでいます。ここから十年二十年後に向けて、乙訓があらぐさを中心とする、全国に誇れる福祉の街となってほしいです。S

▼あらぐさの親が望んだケアホームもう少しで夢がかないそうでうれしいです。成人になった障害のある人が望めば、すべて親から自立して自分の人生を決定できる世の中になるよう、これからもがんばります。シンノスケの母

▼念願のケアホームが出きる。本当に待っていましたという思いです。本当に良かったです。これから建設に着手し出きあがりを楽しみに、これから先、本人や皆んなが幸福に暮らしていけたらいいし、楽しい人生を送ってくれたらいいと思います。親の切なる思いです。畠中



▼たくさん方のご支援をいただき、念願のケアホーム建設、ほんとうにうれしく感謝の気持ちでいっぱいです。「かざぐるま」が出来て一〇年。このホームで生活している息子を見て、早く次のホームの実現を待っていました。ありがとうございました。H．M．

▼夢のケアホームが出来る！感動です。ケアホームで生活をさせたい！との願いで、洋昭と向かい合った日々。人の言う事や状況が理解できるようになりつつあり今がチャンス、生活をさせたい。子供が自立する事で親も安心です。石原洋子

▼乙訓に集合型ケアホーム実現！一〇年前地域にケアホームかざぐるまが出き、息子が自立への一歩の感激と感謝を思い出します。地域の中であたりまえの生活ができる仲間がふえていく事は、息子の励みになります。丸岡正子

▼将来、親がいなくても、あらぐさに通えて、自分の生活を自分らしく築ける事。望みはそれにつきます。その様な生活が送れる事を願い、今、親ができることを、せい一杯したいと思っています。中野

▼多くの方々のご支援をいただき念願のケアホーム建設が実現すると思うと嬉しい気持ちでいっぱいです。いよいよ本人の自立生活を身近なこととして考えられるようになりました。誰れもが、住み慣れた所で、安心して、楽しく暮らして行くことができるよう願っています。ご協力に心より感謝しています。Y．

▼国庫補助が決まった、と聞いた時　本当に良かったと思いました。知らせを聞きながら涙が出て来るような気持ちでした。これまで多くの皆さまに励まされやっとここまで来ました。これからもどうぞよろしくお願いします。木村トミ子

あらぐさの活動

普段とは違う少し特別な一日を

「ふれあいステイ」のとりくみ

デイセンター1では、昨年から「ふれあいステイ」に出かけています。費用は利用者さんのお給料から積み立てています。その予算の中で少し特別な1日を過ごしてもらえるよう中身を考えています。「せっかく自分のお給料を使うのだから、自分のペースで好きなこと、興味あることにお金を使ってもらいたい」――そのような思いで、目的ごとにグループ分けをしています。

3Dの世界に困惑?!

コカ・コーラの工場見学やレストランでの昼食など1日たっぷり遊ぶグループ。あらぐさをお昼過ぎに出て直接宿泊施設に向かい、入浴や夕食をゆっくり楽しむグループ。昼食を外で食べたり、カフェでお茶を楽しんでから宿泊施設に向かうちょこっと外出グループです。

コカ・コーラの工場見学では、コーラの歴史を学べるシアターがあり、そこへ入ると係の人から3Dのメガネを渡されます。みなさんおそるおそるかけてみますが初めて体験する3Dの世界に困惑気味です。びっくりして外してしまう方や、なぜかメガネをかけたまま熟睡してしまう方もいました。大好きなコカ・コーラもたくさん飲めるのに、その場の雰囲気にならい、みなさん1杯で「おしまい」にされ、その姿に職員はびっくりでした。

自宅と違う場で

宿泊場所は「洛西ふれあい会館」です。京都市社会福祉協議会が運営をしており、車いすの方や食事に配慮の必要な方にとっても、安心して過ごすことの出来る宿泊施設です。広くてきれいな大浴場でゆったりと入浴を楽しみました。貸し切りなのでシャワーを職員とかけ合い遊んでみたり、大きいお風呂で職員に抱っこしてもらいぷかぷか浮かんでみたり、とても気持ち良さそうないい表情です。いつまでも遊んでいたくて、なかなか湯船から出られない方もおられました。お風呂上りはマッサージチェアーでゆったりリラックスされる方もおられました。

夕食は豪華な懐石料理。ごちそうを目の前に並べてもらったとたん笑いが止まらない利用者さんも…。今まで食べることのできなかったものも、みんなと一緒ならおいしそうに食べることができる方もおられました。

お布団を敷いた部屋ではみなさんゆったり過ごされます。みんなでお布団の上でゴロゴロして、いつもはあまり顔を合わせない職員や利用者さん同士とてもよいひと時になりました。

自宅とは違う場所で、日中一緒に仕事や作業をしているなかま同士が夜のひと時を過ごす…これだけでも利用者の皆さんには普段とは違う少し特別な一日になったようです。

今後の支援見据えて

昨年から始めたばかりのこの「ふれあいステイ」は、デイセンター1の職員にとって、あらぐさ法人化以来初めての宿泊を含めた取り組みとなりました。そのため、職員の半数以上が利用者さんと一緒に宿泊したことがなく、あらぐさから帰宅されてどのように過ごしておられるのか、夜間どのような様子で眠られるのか詳しくわからない…といった状況でした。そんな職員にとってこれからの利用者さんの自立生活に向け、夜間の様子を知りたいという思いも含まれています。利用者さん一人一人の24時間を見据えたうえで、今後どのような支援が必要なのか、利用者さんにどのような力をつけてもらいたいのかを考えていく上でとてもよい機会になっています。

今年度の取り組みは始まったばかりです。今後も利用者さんにとって「ちょっと特別な1日」になるよう、取り組んでいきたいと思います。

（浜野亜希子・記）

東日本大震災　支援報告③

笑顔いっぱい　ありがとう

障害福祉センター　あらぐさ
職　員　　中島　悠太

「ぴーなっつ」からわずか１ｋｍの地域には、このような光景が広がっていた。

原発から25キロ

ボランティアとして7月4日～9日まで、福島県にある、「デイさぽーとぴーなっつ」の日中支援に参加しました。ぴーなっつは福島第一原発から約25キロ離れた場所にあります。利用者は、ぴーなっつの利用者23名の他、震災後閉所となってしまった「ビーンズ」の利用者15名も通所にこられ、計38名です。これに対し職員が8人ということと、建物のスペースの関係もあり、利用者は毎日通所するわけにはならず、週に2回ほど通所にしてもらう状態でした。

震災による影響

日中活動は、主にボーリングや編み物、風船バレー、さをり織りを行っていました。1日の流れはゆったりとしていて、時々休憩を挟んだり、周りと話したりして過ごされていました。また、午前と午後に分けて入浴支援も行っていました。入浴は大切にしていて、特に震災後間もない頃は、ガチガチに緊張していた体を温めてほぐしたり心をリラックスさせたり、それまで当たり前だったけれど本当に大切なことだと実感されたそうです。

利用者さんは皆明るくて、初日から「京都って何が有名ですか?」「野球はどこのファンですか?」など、気さくに話しかけてこられ、震災後のショックを引きずっている様子は見られませんでした。しかし、職員さんから話を聞くと、震災直後は緊張がなかなか解けず、一度座ったらそのまま何時間も座っていたそうです。今でも、普段は明るい表情で過ごされているけど、震災直後によく流れていたＡＣのＣＭ（こんにちは、ありがとう～というＣＭ）を聞くと「地震?」と怖がられ、職員さんも「ドキッ」とするそうです。他にも、震災前は毎日散歩をしていた利用者さんが歩くことができなくなっていたり、食べることが好きだったのに、食べる量が少なくなった利用者さんがいたり、一見元気そうに見えても、震災前の状態には戻っていないという人が沢山いるということを教えてもらいました。

明るい話題増やしたい

ぴーなっつでは、シンガーの人に歌を歌いに来てもらったり、7日には七夕で短冊に書いた願い事を飾って皆でお菓子を食べるといったイベントごとを大切にしていました。楽しいことを沢山して、明るい話題を増やしていきたいという思いからそうしているとのことで、ボランティアも「他府県から来たボランティアとの出会いは新鮮で、とても良い刺激にもなっているんです」と話されていました。その話を聞いて最終日に「マルモのおきて」の踊りを皆の前で披露しようと思いました。踊りは大成功で、普段行っているラジオ体操はしないのに、この踊りは必死になって真似をしていたという利用者さんもおられました。

途切れることのない支援

利用者さんとお別れの時に、さをりの栞とＤＶＤのプレゼントをいただきました。ボランティアとして来たのに、初日から笑顔をいっぱいもらったり、プレゼントまでいただいたり、与えられたものが沢山ありました。障害を持った人たちは避難所に長くいられない現状がありますが、自分たちの場所で笑顔を作っていくことはできるし、人と物資が集まれば楽しい思い出も作れるのだと思いました。そしてボランティアはこれからも途切れることなく、繋いで繋いで支援をしていくことが必要だと思いました。

後援会への加入・募金　ありがとうございます

ご協力いただいた方々

７月１１日～１０月１０日　　敬称略・順不同

青木　克之
青山　一子
赤堀　彰男
浅井　真美
浅田　光代
飛鳥井　佳子
東　俊明
足達　菜々絵
厚地　芳美
天野　きみ
阿波谷　陽子
井垣　優
池田　広子
池田　芳子
池辺　俊太郎
井古テル子
石井　孝四郎
石川　剛
石田　秀子
石田　睦
石堂　宏宜
石村　和子
市瀬　学
市瀬　貴子
一谷　孝
伊藤　和雄
伊藤　五郎
伊藤　卓次
伊藤　哲夫
稲葉　薫
井上　敏子
井上　光江
今井千代子
今井　雄次
上田　義博
上野志保子
追立富慈子
大井　やす
大釜　和子
大島　武子
大谷　智子
大塚とも子
大槻　和子
大月　裕子
大槻　裕治
大坪　晴美
大西　哲
大林　雅子
岡山　博一
小川　直
小川真寿美
小川麻友美
奥山禎二郎
小谷　勝利
甲斐　幸子
垣内　稔
梶尾　捷次
片山　雅代
香月　敬
勝良　和子
加藤　聖子
門野　三郎
金子美智子
上村　義美
北村　民子
川那辺博一
川畑　和加
木下美智子
木村栄美子
木村　崇
木村　忠
木村としこ
木村　秀人
木村　幸雄
木村　嘉男
久保　節子
鞍貫　梢
倉橋　克之
古瀬　祥江
小林美恵子
小森　律子
小森はる奈
小山　亘
小山　一子
近藤　牧子
西古　永吉
斉田　昭子
斉藤　重男
斉藤　哲雄
崔本　鐘光
坂下　佳子
坂根　輝吉
相良　乙若
佐々木久子
佐藤　光寛
佐野　諦顯
猿橋　正子
澤　月子
塩尻　光明
塩田　彩
志賀　妙子
嶋田　十郎
島津　絢子
嶋本　芳輝
嶋本　美恵
白波瀬恵子
新庄　佑三
新庄　友子
杉井　昭男
鈴木　純子
瀬川　光子
節田　もと
宋　彦一
田上　完二
高野　泰男
鷹野　安子
高橋　久美子
高橋　謙二
高橋　征吾
高橋　明美
高橋　佳子
滝川　正幸
竹澤　哲夫
竹下　士郎
武永　健二
田代千代子
多田久美子
田中　愛子
田中　洋行
田中　正恭
田中　真理
田中　善久
田沼　立也
田端　又吉
玉木　洋子
丹野　直次
長　誠一郎
千脇　隆一
塚上　公治
辻　禧子
土岡ひとみ
津波　章子
坪野津由子
寺島　昌洋
都出　祀子
銅銀　正美
東宮　靖武
豊崎　泰子
内藤嘉津実
内藤　時子
内藤　秀春
内路　克介
中西いく子
中西　正人
中野　修
中村　時雄
中村　文子
中山千恵子
柳楽　幸子
夏原　典子
滑川　弘子
楢原眞喜夫
仁木　宏
西　千恵子
西　幹夫
西井美千代
西田　富雄
西田美智子
西田　良平
西村　宗昭
西林喜代美
西城　信幸
野間知津子
橋口マサ子
橋本さつき
橋本　博
波多由紀子
畠中　勇治
畠中　清子
八田萬喜雄
浜野　紘久
浜野　鈴子
浜野恵利子
浜野　利夫
早嵜　道三
林　英夫
原木とし子
原木　康夫
春田　忠男
東田　克祥
平田　喜裕
平野みどり
平山　功
広瀬　美砂
福井　雅己
福山　満
藤井　俊一
藤井　則男
藤井　正樹
藤沢　和男
藤松　素子
藤本　秀延
別府　哲
細川　幸子
堀江　幸男
本多　三郎
前川　明雄
前田　和宏
牧　由紀子
牧原　幸
増田　尚
増田　聡子
増田　秀雄
増田　靖子
増田　康夫
増田　弘子
町田　摂子
松居　正利
松岡　稔
松下　保夫
松島　朱美
松田　将拓
松村　誠
松山　幸次
松山　雅子
丸岡　敏夫
丸岡　正子
三木　裕和
三島　春子
水野美根子
三谷　文菜
南　ゆかり
三宅　善昭
宮崎　俊一
宮崎　芳子
村井　浩
村井　よし
村井　悦予
村野　英介
村田　清子
村上　宏
八木　崇
八木　八郎
守屋　伸江
八木　弘行
安井　洌
安井　吉子
安田　耕治
安田　拓史
安田　静
藪見富喜男
山川　宏一
山口　愛
山崎　郁子
山下いづみ
山下　敏夫
山田　央
山田　孝子
山田　信博
山田　陽子
山中　繁
山根　信子
山本　朝栄
横川　和男
横川　安子
横山　昌子
吉井　孝一
吉田　智子
吉永　和子
吉永　安昌
吉森　一希
若林　照子
和田　廣茂
和田　正子
渡邊　一翔
渡辺　洋一
渡辺　尚子

乙訓医療生活協同組合
おとくに絵画集団
「ＧＡ」＆彩の会合同展
金原医院　金　達龍
株式会社　魚国総本社　京都支社
株式会社　ガロア一級建築事務所
株式会社　ダスキン双和
株式会社ハウジングステーション
共進自動車整備工場
京都税理士法人
京都西山ロータリークラブ
共和運送株式会社
くぼた医院
すずき内科クリニック　鈴木　元
バーバーパパ　三田　道廣
春田石油　有限会社
ぱんだ企画
ビューティサロン　ナティ
ベーカリー　セルフィーユ　村上　泰之
みちはた小児科医院　道畑　隆
有限会社　長岡美装社
有限会社　ヤスイカメラ
匿名　41名

2011 年度あらぐさ後援会のご加入・更新をお願いします。郵便振替用紙を同封していますのでご活用ください。ご入金と行き違いになりました場合は何卒ご容赦ください。あらぐさ支援募金にもご協力をお願いいたします。

平成４年６月５日　第３種郵便物承認（毎月１回２５日発行）　２０１１年１１月１４日発行　ＫＴＫ増刊通巻第３７２６号
発行所　京都障害者団体定期刊行物協会　〒６０２―８１４３　京都市上京区堀川通丸太町下ル中之町５１９　京都社会福祉会館４階　京都難病連内　　発行人　髙谷修　　頒価５０円（購読料は会費に含まれています）